

平成27年 網走市議会
平成26年度各会計決算審査特別委員会会議録
第5号 平成27年9月24日(木曜日)

○日時 平成27年9月24日午前10時00分開議

○場所 議場

○議件

1. 認定第1号 平成26年度網走市各会計歳入歳出決算について
2. 認定第2号 平成26年度網走市水道事業会計の利益の処分及び決算について
3. その他

○出席委員(14名)

委員長	渡部 眞美
副委員長	井戸 達也
委員	小田部 照
	金兵 智則
	川原田 英世
	栗田 政男
	近藤 憲治
	佐々木 玲子
	田島 央一
	立崎 聡一
	永本 浩子
	平賀 貴幸
	古都 宣裕
	松浦 敏司

○欠席委員(0名)

○委員外議員(0名)

○事務局職員

事務局長	鈴木 直人
次長	永倉 一之
主査	小林 久一
総務議事係長	岩尾 弘敏
係	田中 康平

午前10時00分開議

○渡部眞美委員長 おはようございます。

本日の出席委員は14名で、全委員が出席しております。

ただいまから、平成26年度各会計決算審査特

別委員会を開きます。

本日の審査日程は、認定第1号平成26年度網走市各会計歳入歳出決算について及び認定第2号平成26年度網走市水道事業会計の利益の処分及び決算についての取りまとめを行います。

初めに、認定第1号について、各会派または各委員から賛否と総括的な意見について発言をしていただきます。

なお、前年度は附帯意見をつけることなく結審いたしました。この附帯意見を付すか否かについてもあわせて発言をお願いします。

○金兵智則委員 まず、認定第1号でありますけれども、一般会計につきましては今年度も黒字ということですが、今年度は基金を取り崩しての黒字ということですが、風雪害の影響など、状況としてはやむを得ないといふふうに理解しております。

しかしながら、今後どのようになるかはわかりませんが、厳しい財政状況は今後も続きますので、状況を見据えた財政運営が必要というふうに考えております。

また、経済対策については、今後ともさらなる積極的な取り組みを求めたいというふうに考えております。

また、市民に直結する予算については、可能な限り削減をしないという方向性を持った市政運営に努めていただきたいというふうにも考えております。

さらに、事業の継続性といった観点から考えましても、第3次行政改革の影響もあり、職員の皆さんの残業時間が膨らんでとても大変かというふうに思いますが、きちんとした事業の検証を行うとともに、制度の向上に努めていただき、それをもって次年度以降の事業の実施に生かしていただきたいというふうに考えております。

特別会計につきましては、能取漁港、網走港を初めとした特別会計の赤字削減に引き続き全庁的な取り組みを進めていただきたいというふうに考えておまして、私ども会派といたしまして附帯意見を付して認定したいというふうに考えております。

○渡部眞美委員長 結政の会の代表ということで皆さん、委員同じ意見ということでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

○立崎聡一委員 私ども志誠会は、平成26年度網走市各会計歳入歳出決算については、認定したいというふうに思います。

実質収支比率、実質公債比率等を見ますと、依然、高どまりはしているものの、緩やかに減少しているのも事実でございます。

また、人口減少に関する問題として、市税収入の状況減など、地域経済が低迷する中、厳しい状況にはあると思います。

今後とも財政の健全、安定化を図るため、適切な管理と執行を望むものであります。

また、市民生活におかれましては、今後、公共料金の値上げや増税など、極めて厳しい状況が続くと思われまます。市民満足度向上のために山積する課題を柔軟に対応していくこと、財政再建の取り組みを着実に推進し、限られた財産、財源を効率的に活用し、今後とも行財政運営に努めていただきたいというふうに思っております。

附帯意見についてはつけません。以上です。

○渡部眞美委員長 志政会さんの代表ということでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

次、お願いいたします。

○佐々木玲子委員 私ども公明クラブといたしましては、今回の会計につきましては種々議論をさせていただきましたけれども、非常に厳しい経済状況の中、種々御努力をされているということがわかれまましたし、実際にこれからもまた私たちも協力しながら、この財政状況をしっかりと見据えながら、これからの今回の皆さんからの質問等、反映させていただいて28年度の予算にもしっかりとまた市民の安全と安心のための財政運営をしていただけるということを信頼いたしまして、承認をいたしたいと思っております。

附帯意見はつけなくて承認をいたしたいと思っております。

○渡部眞美委員長 公明クラブの永本さんも同じですね。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

次、お願いいたします。

○栗田政男委員 私は、認定第1号については認

定すべきだと思います。

附帯意見については、特別つけないということですよ。

○松浦敏司委員 認定第1号についてでありますけれども、これまで11年連続して基金の取り崩しをすることなく黒字会計でありましたけれども、平成26年度については基金を取り崩して単年度黒字ということでありました。

ただ、これは連続する暴風雪の被害というようなことでの除雪費の増大が要因ということでありました。

監査意見書を見ましても財政力指数では、前年度より0.006ポイント増加して0.385と若干の改善は見られますけれども、他の類似団体の平均よりも低いという状況、依然として自主財源の割合が小さく脆弱な財政構造となっていると、こんなふうにも指摘しております。

経常収支比率も93.2%と前年度より1.6ポイント上昇したことにより、厳しい財政運営が強いられるということになります。

また、公債費も依然として高く、これは過去の身の丈を超える公共投資が大きく影響をしているというふうに考えます。

また、職員の時間外勤務が前年度よりも増加し、200時間を超える時間外勤務が八つの課にまで増加しているということも指摘しなければなりません。

そういう中でも住宅リフォーム融資制度や生活道路の事業などについては一定の評価をすべきというふうにも思いますが、しかし、総体としては認定できないという立場であります。

次に、特別会計についてです。市有財産特別会計の平成26年度は65万8,800円と、これまでになく事業費がかかっていません。しかし、これまで既に24億2,015万円もの金額が投入されていると、今後も潮見住宅団地の地盤沈下に対して対策を講じなければならないと、これは市のずさんな宅地造成によって起きたものであり、反対しなければなりません。

次に、国民健康保険特別会計であります。収納率が現年度はわずかに下がっているものの横ばい、滞納分は大きく伸びていることは評価いたしますけれども、依然として所得80万円から150万、150万から300万といった所得階層の未納状況からも保険料が高くて払うに払えない世帯が存在してい

る問題、また資格証が31件あることはやはり命にかかわる問題で発行すべきでないという考えから認定できないということでもあります。

網走港整備特別会計は、網走港の利用状況は何度かの下方修正しての目標に対しても外貨、内貨とも利用率が40%台ということで計画そのものが過大であったということのあかしではないかと思えます。

また、背後地の用地売却についてもまだ未売却地が12万3,989平方メートル、赤字が14億1,666万円もあると、土地が売れない限りこの赤字は減らないこと、ゼロ金利で今のところ救われておりますけれども、第2の能取になりかねないというものであり認められません。

能取漁港整備特別会計は、最大で過去57億円の赤字を出していた会計です。40億円の地総債事業や23億5,000万円の基金投入で現在6億6,600万円の赤字があり、未売却地が全て売れたとしても5,000万円を超える赤字が出ているということで、債務超過の状況にあります。安藤市政の最大の負の遺産とはいえ認められない。

次に、流氷館特別会計についてです。流氷館は、建てかえたとき準公債という入館料で全て運営と借金を返済するという許可になった会計であります。

平成26年度は一般会計から670万2,000円の繰り入れしている状況であり、前年度より減少しているとはいえ、健全な会計とはいえないと、そのことから認められません。

後期高齢者医療特別会計についてです。75歳以上の高齢者を別囲いにする医療制度で、一度は廃止することが決まったほど問題のある制度であります。

保険料は2年に一度見直しがなされ、自動的に保険料が引き上げになると、少ない年金から保険料も天引きするというもの、年金生活者にとって差別的な医療であり、到底認められません。

以上、認定第1号については認定できないということでもあります。

○渡部眞美委員長 次に、認定第2号について、各会派または各委員から賛否と総括的な意見について発言をいただきたいと思えます。

なお、水道決算につきましても、前年度は附帯意見をつけることなく結審いたしました。この附帯意見を付すか否かについてもあわせて発言を

願います。

○金兵智則委員 続いて、認定第2号ですけれども、平成26年度決算につきましては人口減少の関係から、給水人口も減少しているという状況でありましたけれども、平成17年度以来となる料金改定を実施したこともあり、営業収益の増収ということもありました。

また、営業費用も昨年度より減収という状況の中、健全化に努められているのかなというふうに思います。

また、今後とも透明性のある財政運営に努めていただきたいというふうに思います。

さらに、今年度は新しい会計制度が導入された初年度であったということもありまして、幾つかの支障に結果として目立った変動もあったというふうに理解しております。

それらを含めて今後とも注視をしていく必要もあるというふうに思いますけれども、いずれにしても今後、布設がえ並びに補修などが続いていくというふうに思いますけれども、市民の理解を得ながら着実に進めていっていただきたいということで、私ども会派といたしましては附帯意見を付すことなく認定したいというふうに思います。

以上です。

○小田部照委員 私たちの志誠会としましては、認定したいと考えております。

給水人口の減少ですとか、地域経済の低迷という中で節水意識の向上などによって給水量の増加が難しいとされている中、今後、収支バランスをどうとっていくのかというところには問題がありますが、現状の会計上はきちんとされているという認識をしています。

以上のことから、認定したいと考えております。

また、附帯意見は付さないということで考えております。

○佐々木玲子委員 私ども公明クラブとしましては、この認定第2号に関しまして、非常に給水人口が減る中、また、いろいろな社会情勢の中、大型のホテルが閉鎖をしたりとか、また加工場関係でもなかなか給水がふえていかないという状況の中で、しっかりとした事業運営をしているなど認められましたので、附帯意見をつけずに承認をいたしたいと思えます。

○栗田政男委員 これについても認定したいと、附帯意見はなしでお願いします。

○松浦敏司委員 認定第2号については、平成26年度から28年度の財政収支が1億8,400万円の累積赤字が見込まれるというようなことから、平成26年度5月から平均8%の基本料金を値上げするというものであります。

しかし、同じく消費税が平成26年度4月から8%に引き上げられた、そういったもとの値上げであり、市民の負担感というのは大変なものであったということでもあります。

基本的には、公共料金という性格からしても、可能な限り低所得者や生活弱者、経済弱者に対する減免的な基準を講じて軽減措置は必要であったというふうに思いますが、残念ながらそのようなことになっていないというようなことから、この水道会計については認められないということがあります。

○渡部眞美委員長 以上で、各委員の賛否についての発言を終了いたします。

ここで、暫時休憩をいたします。

午前10時16分休憩

午前11時20分再開

○渡部眞美委員長 休憩前に引き続き、再開いたします。

先ほど、各委員から認定第1号及び認定第2号について賛否と総括的な御意見をいただきました。

ここでお諮りいたします。

まず、認定第1号平成26年度網走市各会計歳入歳出決算については、大方の委員の意見として原案認定すべきものということで取りまとめさせていただきますが、これに御意見ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議がありませんので、認定第1号は、大方の委員の意見として原案認定すべきものと決定いたしました。

また、各委員より認定第1号については大方の委員の意見として、附帯意見を付さないという発言がありました。

ここでお諮りをいたします。

認定第1号平成26年度網走市各会計歳入歳出決算については、大方の委員の意見として、附帯意見を付さないということで取りまとめさせていただきますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議がありませんので、認定第1号は、大方の委員の意見として、附帯意見を付さないことに決

定いたしました。

次に、認定第2号平成26年度網走市水道事業会計の利益の処分及び決算については、大方の委員の意見として、原案可決及び認定すべきものということで取りまとめさせていただきますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議がありませんので、認定第2号は大方の委員の意見として、原案可決及び認定すべきものと決定いたしました。

また、各委員より認定第2号については、大方の委員の意見として附帯意見を付さないという発言がございました。

ここでお諮りをいたします。

認定第2号平成26年度網走市水道事業会計の利益の処分及び決算については、大方の委員の意見として、附帯意見を付さないということで取りまとめさせていただきますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議がありませんので、認定第2号は、大方の委員の意見として、附帯意見を付さないことに決定をいたしました。

以上をもって、本委員会に付託された案件の審査は全て終了いたしました。閉会することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

ここで、私から一言御挨拶を申し上げます。

去る9月3日、平成26年度各会計決算審査特別委員会が設置され、私が委員長に、井戸達也委員が副委員長に選任されまして、延べ4日間にわたり審査をいただいたわけでありましたが、その間、委員の皆様におかれましては大変熱心に審査をいただき、心からお礼を申し上げます。

それでは、以上で、特別委員会を閉会いたします。

大変、御苦労さまでした。

午前11時23分閉会